

G3共同通信杯

<最終見解>

本命はジャスティンミラノ。

今年3歳のキズナ産駒は種付け料が前年からほぼ倍増した年に種付けされた世代。繁殖、育成ともに今までとは一段違い、特に牡馬はこれまでのイメージを変える活躍も期待できます。母は芝1000mのG1勝ち馬。マカヒキ、ワグネリアン、ドウデュースもそうだったように、短距離指向のスピード秘めた血統をクラシック向きに仕上げるのは友道厩舎の得意パターン。

相手本線はジャンタルマンタル。

当コース重賞連対馬を複数出しているスマートストライクの系統で、上がりの出る軽い芝中距離ベスト。近走よりもさらに上積みが見込めます。

G2京都記念

<最終見解>

本命はマテンロウレオ。

母父ブライアンズタイム。

当レース勝ち馬でタフな馬場の非根幹得意のクリンチャーも母父ブライアンズタイム。

同じくタフな馬場でジェンティルドンナを負かして優勝したデスペラードも母系にブライアンズタイム。

関西圏以外の競馬では崩れますが、関西圏では堅実。

昨年よりも馬場、相手関係ともに恵まれています。